

「歴史資料館」10月開館へ～令和2年度第4回通常総会の開催状況～ 「思い出集」の出版等を決議



第16号

発行

NPO法人 蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会

山形県上山市金谷530

発行責任者 川口 兼次

編集責任者 高橋 正之

TEL/FAX.023-679-2435

印刷所

有限会社 東洋企画印刷

山形県上山市四谷2-1-46

TEL.023-673-1648 FAX.673-1646

土田貞男理事がご逝去

当法人の理事・土田貞男氏は、病氣療養中のところ、令和2年6月29日山形市立済生館病院においてご逝去されました。享年72歳でした。

故人は、製錬課・土田貞二郎・はなよご夫妻の長男として誕生し、高校、大学時代にスキー競技で活躍したあと、(有)東洋企画印刷を起業し、印刷業界でも活躍。当法人の活動にも設立初期から参加し、物心両面から大きく貢献しました。

葬儀は、7月2日上山市・壽仙寺において執り行われ、当法人から弔花、弔電を奉呈するとともに川口兼次理事長が参列し、弔辞を奉読しました。

平成26年6月、近代化産業遺産認定に向けた元山坑口調査を行った際、精力的に調査活動に尽力していた在りし日を偲び、心よりご冥福をお祈り致します。写真は、調査活動の時撮影した記念写真です。最前列右側から2人目が故人です。



「資料館」は、ジオラマを初めとした展示物の充実にも、体育館棟の効果的な運営に努める。

○「資料館」の次期工事として予定している「教室棟」の建設は、感染を巡る情勢を見極めながら進める。

○「資料館」は、ジオラマを初めとした展示物の充実にも、体育館棟の効果的な運営に努める。



なお総会の開催については、総会招集権者である理事長より

「新型コロナウイルスの感染防止」という観点から集会形式は避けるべし」との指示があり、定款第29条の規定を準用し書面表決方式によって議決を行うことを決議しました。

以上の決定を受けて、6月11日より各社員に6月19日を総会開催日とする「令和2年度通常総会 議案書を送達し、表決書による決議を求めた結果、賛成多数により議案は原案どおり議決されました。

提案した議案のうち、事務所移転については、定款の変更を伴うところから、所定の書類を作成し、7月6日山形法務局に移転申請書を提出、登記を完了しています。

以上の手続きの結果、当法人の事務所は、下記記の住所に変更となりました。

問い合わせ、事務連絡の際には、下記をご利用ください。

〒999-3103 山形県上山市金谷530番地 高橋 正之方

電話番号 023-679-2435 (留守電可能、fax 受信可能)

Eメールアドレス: zaokozan@gmail.com

感謝

令和2年4月1日より7月25日までの会費、寄付金についてご報告いたします。

会費

江戸川区 鈴木 義雄様
渋谷区 石原 邦子様
中頓別町 川口 二郎様・川口とし子様
新潟市 熊谷 忍様
松戸市 渡部 弘道様
さいたま市 高橋 輝幸様
ふじみ野市 丹野 正俊様
座間市 斉藤 暢之様
仙台市 川口 正人様・川口 薫様
尾花沢市 東海林忠雄様
寒河江市 斉藤 宏様
山辺町 佐藤 京一様
山形市 川口 兼次様・川口 京子様
川口 幹雄様・木村 久子様
木村 勝子様・秋山 峰広様
旭岡 清人様・西野 哲様
西野 洋子様・丹野 啓様
川口 周治様・川口たけ子様
鈴木 ひさ様・鈴木 敏和様
佐東 弘子様
上山市 小松 正和様・今田太加司様
原田 正男様・川口 尚也様
川口 良子様・川口長次郎様
横尾 敏子様・土屋 健一様
土屋 智弘様・篠原 政志様
村山 利夫様・柴田 信一様
中川 善博様・鈴木 敏彦様
齊藤 善吉様・佐藤 竹志様
佐藤 芳子様・佐藤衣利子様
芳賀 律子様・長谷部佳明様
山川 秀男様・山口 好様
鈴木 秀幸様・山口千恵子様
三澤 健二様・小川美代子様
高橋 正之様

ご寄付

江戸川区 鈴木 義雄様
練馬区 楠 泰夫様
山形市 野地 貢様
遠藤 勢一様・内海 清人様
須江 和寿様・五十嵐長吉様
梅津 修様・佐藤 浩様
山形市 森田 栄一様・水田 延子様
小松 正明様・堀野 昌俊様
川口よう子様・大場 秀雄様
長岡 迪生様・青木 俊二様

製錬所を再現するジオラマを発注



当法人では、東日本鉄道文化財団の支援を受け、操業当時の鉱山製錬所地区をジオラマで再現し、「歴史資料館」に展示しようと、取り組んでいます。

令和元年12月より、製作会社である株式会社イブム・デザイン(仙台市)と数回にわたり建物、位置、形状、地形等について打ち合わせを行ってきましたが、令和2年6月10日最終調整が終わり、同年6月25日ジオラマ及び展示台の発注を行いました。

この発注したジオラマは、製錬所の会社事務所、製錬所等の各作業所、索道、各社宅、寮等を再現するものです。

製作範囲は、東側は山神社が鎮座していた山裾から、西は灰捨て場まで、南側は仙人沢の七曲がりから、北側は製錬場の先、蔵王沢の手前までを想定しています。大きさは、縮尺1/350、120×880の規模。製作費総額は、消費税込みで百10万円。10月の開館時に完成見込みです。

「資料館」へ視察が相次ぐ



新型コロナウイルスの「緊急事態宣言」解除後、蔵王鉱山歴史資料館への視察が相次いでいます。

■6月21日(日)、地元中山地区甲石共栄会(敬老会)の一行15人が春の視察旅行で来訪しました。当日は、川口兼次理事長が歓迎のあいさつを行ったあと、高橋専務理事が鉱山の歴史や展示品を説明、その後、七曲りイベント広場を案内しました。視察終了後は、猿倉レストハウスで名物のジンギスカン鍋で会食し、大変好評を博しました。

■7月14日(火)、上山市観光ボランティアガイド協会の東海林憲男研修部長、三浦 豊総務部長が会員の研修を前に事前視察に来訪しました。両人は、展示している三元山坑内図「坑内火災状況報告書」に驚きの声を上げ、今後を期待していました。同会では、役員会で一部の役員から懐かしむ声があったことから研修を企画したもので、10月のオープン直前に会員多数を案内したいと見学申し込みをしていました。

■以上のほか、8月8日(土)には、上山市内の生涯学習団体「ゆうがくクラブ」の視察申し込みが届いています。

蔵王鉱山は誰のもの

その十四

鈴木悠平君の出現

(蔵王鉱山製錬課長・鈴木秀男氏、通称バセンさんのご子息)

兄貴！この俺様を兄貴！と、気安く呼びつける奴はイナイはず。振り返って見ると懐かしい悠平君。「山神社、何かと大変だろうから手伝わせてくれ」とのこと。嬉しかった。二代目の出現を待ちわびていた頃でもあり、人手がほしかった。

悠平君グループの参加により、山神社の維持管理(清掃、草刈り)や山神社祭の運営について盛大さが感じられ賑やかになっていった。

当時、山形県の大物と評判の高かった山形新聞の服部社長を指して「川口さん、服部さんに会いたければいつでも俺を通してくれ、予約なしでいつでも会えるようにしてやるから！」この一発に

は、この俺様も声が出なかった。我輩もずい分デカイ事を言ってきたが、悠平君ほどではなかった。鉱山育ちだけあってスキーは抜群だったらしい、天下の名門日大山形高のスキー部に所属しOB会の会員に名を連ねている。後輩には土田貞男君や山形県アルペンスキー三冠王(滑降、大回転、回転)

(次回からは、いよいよ「近代化産業遺産」認定に向けて組織的な活動に入る)

「思い出集」 編集作業進む！

「資料館」のオープンの日に展示発売を予定している「蔵王鉱山の思い出集」(仮称)の編集作業が急ピッチで進んでいます。

これまで、先輩や二世の方々から記事を送り編集を行ってきました。現在活字になった記事は以下の通りです。この記録集は、鉱山の歴史を後世に伝えるため、会員を始め広く市民に販売するとともに、上山市図書館にも寄贈し、懐かしい日々を永久保存するものです。

編集作業は、8月末を目途に行っています。会員の皆様も、仕事や家族の出来事あるいはご自身の「思い出」を是非原稿に起こし、当法人事務所まで送ってください。まだ間に合います。到着をお待ちしています。

これまで編集作業が整った寄稿文

○先人達の思い出 (この欄稿していた記事は蔵王鉱山・山神谷に掲載された記事を抜粋して掲載)

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 「蔵王鉱山・中川分校」 | 竹割 政男 (蔵王事務所) |
| 2 「旧蔵王寮」ほか | 菊池 正男 (分析) |
| 3 「日東金属蔵王鉱山の思い出」 | 渡部 弘道 (勤労) |
| 4 「命のともしび」 | 村山 司 (経理) |
| 5 「赤旗から水商売へ」 | 川口 兼次 (元山) |
| 6 「私の蔵王鉱山と山神様」 | 伊藤 ヤエ (製錬) |
| 7 「私の蔵王鉱山時代」 | 齋藤 善吉 (索道) |
| 8 「熊公とゴンちゃん」 | 村山 司 (経理) |
| 9 「元山視察記」 | 川口 尚也 (元山) |
| 10 「48年目の元山」 | 村山 利夫 (元山) |
| 11 「組合の書記として六年間。三人の委員長にお便しして」 | 猪口 悦子 (組合事務所) |
| 12 「蔵王鉱山の思い出」 | 佐藤 泰子 (組合事務所) |
| 13 「軌跡は続いて行く。閉山50年によせて」 | 鹿野 道彦 (衆議院議員) |

○二世の思い出 (この度寄稿していただいた記事)

- | | |
|----------------|-------|
| 1 元山の生活 | |
| 1 「若竹寮の思い出」 | 土屋 健一 |
| 2 「蔵王鉱山と私」 | 鈴木 敏和 |
| 3 「元山、若竹寮の思い出」 | 斉藤 暢之 |
| 2 製錬場の生活 | |
| 1 「蔵王鉱山の思い出」 | 高橋 正之 |
| 2 「蔵王鉱山の思い出」 | 野地 洋 |
| 3 「父との思い出」 | 高橋 輝幸 |
| 4 「蔵王鉱山の思い出」 | 原田 正男 |
| 3 猿倉の生活 | |
| 1 「猿倉生活と私」 | 佐東 弘子 |
| 2 「猿倉の思い出」 | 長井 洋一 |

○恩師の思い出 (「硫黄」に掲載された記事から)

- | | |
|-------------------|----------|
| 1 「あかつきの道」(抜粋記事) | 金森 昌江 先生 |
| 2 「中川第二小学校と共に生きる」 | 高谷 栄三 先生 |

以上のほか「硫黄」にこれまで掲載した「訪問記」「近況だより」を掲載する予定です。また、資料編として、鉱山の歴史や思い出の写真を掲載しようという計画しています。いずれも会員の皆様からの寄贈写真です。その一部を下に紹介します。

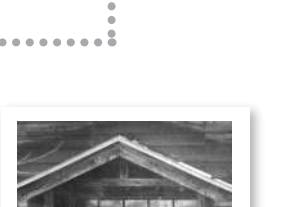
元山地区

(鈴木敏和理事よりの寄贈写真を掲載)



製錬場地区

(鈴木敏和理事及び長谷部佳明監事からの寄贈写真を掲載)



猿倉地区

(鈴木敏和理事及び長谷部佳明監事からの寄贈写真を掲載)



イベントパークの環境整備を実施

当法人は、上山市よりイベントパーク(元の製錬所跡地)の管理を委託されています。令和2年度も6月28日(日)を皮切りに、数次にわたり法人役員を動員し、広場周辺ののり面、道路などの草刈り作業等を行い、環境整備を実施しました。



編集後記

◆ 新年度に入り事務局をバトンタッチ。理事会・総会の開催、事務所移転に伴う法務局への定款変更申請、市役所への事業報告書等の提出、イベント広場の整備、機関紙編集、合間に「思い出集」の編集とバタバタと業務処理。一段落したのが7月下旬。これまで多くの事務を処理してきた前事務担当者に敬意を表します。

◆ 土田理事が旅立ちました。我が家はサムライ長屋、彼は風呂場前の坂下にあった長屋。はなれ小僧の時から知っている友。学校帰り七曲りで山菜を採り、中学では一緒に野球をやった仲。閉山後は、甲石で家族ぐるみのお付き合い、「まっちゃん」と呼んでくれる友をまた一人失いました。

◆ 「思い出集」を編集。先輩の「会報」に掲載された記事を打ち直しながら、少年時代に見た鉱山の風景が蘇ってきました。また多くの皆さんから記事を送っていただきました。感謝、感謝です。

◆ 当法人の活動財源は、全額寄付金です。会費、賛助会員の寄付金など多くの善意を賜りました。そのご厚意に比べればと急遽本号を編集した次第です。ありがとうございます。次号は、コロナの爆発的感染がなければ、10月に予定している「資料館」開館の様をお伝えしたいと思っています。コロナが落ち着くことを祈りましょう (高橋記)